



日本プライマリ・ケア連合学会
北海道ブロック支部 活動報告

発行人：支部長 木村 眞司

北海道ブロック支部事務局
(松前町立松前病院事務局)
TEL:0139-42-2515 FAX:0139-42-2516
e-mail:hpca.jimukyoku@gmail.com

ニュースレター No. 13 (2016. 3)

文責 北海道ブロック支部長 木村眞司 (松前町立松前病院) shkimura@sapmed.ac.jp
北海道ブロック支部事務局アドレス hpca.jimukyoku@gmail.com

<お知らせ>

支部経費節減のため、北海道医師会・札幌市医師会にご協力いただき各種行事に場所を使わせて頂いております。関係各位に心から感謝申し上げます。

<今後の支部などの行事予定>

3. 平成28年5月28日午後2時 **幹事会** 場所未定
4. 平成28年7月2日(土)午後 **北海道ブロック支部地方会** (別紙の予告をご参照下さい)
場所：かでの2・7 (札幌市中央区北2西7)
5. 平成28年秋 北海道医学大会プライマリ・ケア分科会 (兼北海道プライマリ・ケア研究会学術集会) を北海道プライマリ・ケア研究会 (長瀬清会長) と共催
6. 平成28年11月26日(土) **北海道プライマリ・ケアフォーラム**
場所：かでの2・7 (札幌市中央区北2西7)

<活動報告>

1. **幹部会**を毎月一回スカイプ会議で行なっています (参加：支部長、副支部長 (川畑、木佐、臺野、山田))。
2. 平成27年10月2日(金) 13時30分～17時 **第2回サイトビジット**
訪問先プログラム名 北海道勤医協 総合医・家庭医後期研修プログラム
訪問先 月寒ファミリークリニック、勤医協中央病院 (いずれも札幌市)
訪問者 3名
13時30分より月寒ファミリークリニック、14時30分から移動し、15時00分より勤医協中央病院を訪問した。施設の見学、専攻医の診療録の確認、指導医や専攻医へのインタビュー、カンファレンスへの同席などを行った。
日常診療での振り返りの他に、個別の事情に配慮しつつも1年間は地方都市で研修する、月1回全専攻医が1箇所集まって「二木会」と呼ばれる学習会を開催している、指導医も含めて年に1回ポートフォリオ発表会を行う、地理的に離れている指導医同士も定期的に会議を持つ、など研修の質を高めるために様々な工夫がなされていた。(文責木佐健悟副支部長)
3. 10月4日(日) 9時30分～11時30分 **第2回北海道ブロック・ポートフォリオ検討会**
場所 北海道医師会館会議室

参加者 タスクフォース 2名、一般参加者 6名、オブザーバー2名

自己紹介、ポートフォリオに関するショートレクチャー（約 20 分）の後、参加者が持ち寄ったポートフォリオを順番に検討した。専攻医がポートフォリオ作成の際に生じた疑問を、他のプログラムの専攻医や指導医とディスカッションした。

参加者からは、他の意見が聞けて良かった、こういう場があることでポートフォリオを早め早めを書く動機付けになる、といった感想があった。（文責木佐健悟副支部長）

（2と3の両企画を通して：現在は両企画とも、後期研修プログラムやポートフォリオ作成がきちんとできているかの確認というよりは、立ち上げて間もないプログラムや所属する専攻医・指導医が少ないプログラムへのサポートという点を重視して行っている。ただ、そのようなプログラムからの参加者が少なかったため、今後の両企画のあり方も再考する必要があると考えられた。（同）

4. 10月24日（土）14時 北海道ブロック支部幹事会

場所：北海道医師会館

議事

(1) 報告事項

- 1 平成27年度地方会の振り返り
- 2 サイトビジットについて
- 3 指導医養成講習会について
- 4 ポートフォリオ検討会について
- 5 平成27年度北海道プライマリ・ケアフォーラムの開催について
- 6 平成27年度北海道地域医療ウィンターキャンプの開催について
- 7 来年度の地方会について
- 8 総合診療専門医制度について
- 9 選挙について
- 10 北海道プライマリ・ケアネットワークからの補助金について（キャンプ6万円、地方会10万円、フォーラム10万円）
- 11 支部の財政について
- 12 北海道プライマリ・ケア研究会との関係性について（来年秋の北海道医学大会プライマリ・ケア分科会（＝北海道プライマリ・ケア研究会学術集会）を共催する）

(2) 協議

- 1 謝礼・交通費・参加費・懇親会費 改定案について（→支部の財政難により改定案が承認されました。基本的には 会員への謝礼はなし とすることに）
- 2 学生への働きかけについて

5. 11月28日（土）13:00 第3回北海道プライマリ・ケアフォーラム

場所：かでの2・7

勝田琴絵先生（勤医協芦別平和診療所）を実行委員長に学生・若手医師の方々が1年間にわたり企画して下さいました。例年当ブロック支部と北海道庁が主催しています。

ポスターにお示しするような魅力的な内容で会場は満員御礼でした。スタッフも含め140名超が参加されました。旭川医大・札幌医大・北大から多くの医学生が参加。非常に魅力的な学生企画・ワークショップ・特別企画が行なわれ、どのセッションも盛り上がりました。

基調講演は唐津市民病院きたはたの大野每子院長による「家庭医をめざしてジャングルジムをのぼったら」。気さくな大野先生のウィットに富むトークで今までのキャリアを現在に至るまで振り返っていただき参加者皆が魅了されました。

懇親会では各後期研修プログラムの紹介も行なわれ、充実したフォーラムを締めくくりました。企画・運営を担当して下さった方々、参加者の皆様に心より御礼申し上げます。(文責 木村眞司)

(別紙：フォーラムの案内と北海道保健福祉部医師確保推進グループが作成して下さった写真による報告)

6. 平成28年1月30日(土) 午後2時 幹事会

場所：北海道医師会館 会議室 (札幌市中央区大通西6丁目)

議事

(1) 報告事項

- 1 平成27年度北海道プライマリ・ケアフォーラムの開催について(11月28日土曜)
- 2 平成27年度北海道地域医療ウィンターキャンプの開催について(28年3月4-6日(金土日)
(寿都町の予定)
- 3 来年度の地方会について(28年7月2日)
- 4 総合診療専門医制度について
- 5 選挙について
- 6 支部の財政について。新しい振込用紙について。
- 7 北海道プライマリ・ケア研究会との関係性について(来年秋の北海道医学大会プライマリ・ケア分科会を共催する)
- 8 学生への働きかけについて(1月8日(金)旭川医大で木村講演、1月22日(金)草場・木村 札幌医大で地域枠学生・地域枠医師に講演)

(2) 協議

- 1 ミニ地方会(仮称)について→札幌以外の地区でミニ地方会(仮称)を開催したり、また、既に各地で行われている会合への単位付与を積極的に行なっていくことに。
- 2 学生への働きかけについて

7. 平成28年3月4-6日(金土日) 第2回北海道地域医療ウィンターキャンプ2016 in 寿都

場所：寿都町 次回のニュースレターで報告いたします。

北海道ブロック支部 第4回地方会（予告）

日 時 : 平成28年7月2日（土）13時30分～18時10分
場 所 : かでる2・7（北海道立道民活動センター、札幌市中央区北2西7）

プログラム

1. 開 会 司会 北海道ブロック支部事務局

2. 挨拶 支部長・実行委員長 木村 眞司

3. 総 会 13:40～14:00

4. 学術発表（演題募集中です一別紙をご参照下さい） 14:00～15:00
口頭演題 A、口頭演題 B、ポスター演題（3セッションを並行して行います）

5. ワークショップ、シンポジウム等 15:10～16:40
 - （1）ワークショップ1 『実践してみよう！ 在宅移行支援！ あなたのチームは必要な人に意図的な情報収集ができるか？』
 - （2）ワークショップ2 『外来でよくみる運動器疾患の実践的アプローチ』
講師 森 利光 先生（せたな町国保病院）
 - （3）シンポジウム 『在宅医療における薬と多職種協働』
 - （4）日常診療 Update うつ、浮腫・心不全、更年期障害、尿失禁を予定
 - （5）ビブリオバトル（募集要項は近日中に支部ホームページに掲載します）
（5つのセッションを並行して行います）

6. 基調講演 16:55～18:05

演題 『これからの薬剤師の方向性はどうあるべきか
～ピンチかチャンスか：2025年を見据えて～』

講師 北海道薬科大学 地域医療薬学分野 教授 古田 精一 先生

7. 閉 会

懇親会を18時30分から行う予定です。

地方会参加費： 学生・初期研修医無料、支部会員 2,000 円、非支部会員 4,000 円
懇親会参加費： 5,000 円（学生は 3,000 円）

平成28年 1月 6日

各 位

日本プライマリ・ケア連合学会
北海道ブロック支部長
第4回地方会実行委員長
木村 眞司

日本プライマリ・ケア連合学会北海道ブロック支部第4回地方会
一般演題(口演・ポスター)募集のお知らせ

日頃より日本プライマリ・ケア連合学会および同北海道ブロック支部に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当支部では、平成28年度に開催する地方会での一般演題を下記により募集いたします。今回は前回同様に口演とポスターの双方を募集し、口演とともにポスターも発表時間および質疑応答の時間を確保することにしました。皆様の研究や活動をご発表ください。よろしくお願いいたします。

記

1. 開催日：平成28年7月2日(土)

演題発表の時間 午後2時00分～3時00分

開催場所：かでの2・7(札幌市中央区北2条西7丁目)

2. 演題は2つの種類を受け付けます。

1) 口演発表

2) ポスター発表

発表内容に関しては、学術報告(研究形式のもの)、症例報告・活動報告を受け付けます。症例報告・活動報告では、診断や治療に苦慮した事例・教育的な事例に限らず、各職種での事例の報告や地域包括ケアの事例報告、教育やプライマリ・ケア、地域包括ケアなどの実践報告も歓迎します。

3. 発表演者の資格

筆頭演者は日本プライマリ・ケア連合学会会員に限ります。

未入会の方は入会手続きをお願いいたします。共同演者はこの限りではありません。なお、登録した住所が北海道の場合、学会会員になると自動的に北海道ブロック支部会員になります。支部会費(医師の場合5,000円、他医療スタッフ3,000円、学生1,000円)の納入も併せてお願いいたします。

(入会手続き等について、詳しくは日本プライマリ・ケア連合学会および同北海道ブロック支部のホームページをご覧ください。)

4. 発表時間、方法

口演発表、ポスター発表ともに発表時間6分、質疑応答3分を予定しています。
(応募数によって多少変更の可能性があります。)

口演発表：コンピューター使用 (Windows 7・Microsoft PowerPoint 2010)

当日、USBメモリーで発表データを受付時に提出してください。

ポスター発表：縦210cm×横90cmのスペースを用意します。各自でポスターをご持参ください。1枚でもA3やA4サイズで何枚かに分かれても結構です。画鋏は事務局で用意いたします。

5. 申し込み方法

抄録を支部事務局へメールにて平成27年4月11日必着でお送りください。

メールには、代表者氏名、所属、メールアドレス、口演発表かポスター発表かの希望をご記入ください。

抄録（ひな形）につきましては、支部のホームページよりダウンロードできます。

支部事務局：hpca.jimukyoku@gmail.com

支部HP：<http://jpca-hokkaido.jp/>

6. 抄録作成にあたっての注意事項

1) 抄録の構成

学術報告は、研究の目的、方法、結果、考察、結論の項目に分けて記入してください。

活動報告・症例報告はこのような構造化抄録にする必要はありません。

2) 用紙サイズ、フォント、文字数

ひな形にあるA4サイズ1枚に収まるように、MS明朝体、10.5ポイントで、タイトル（50字以内）、氏名、所属（所属は略称可）、抄録本文（800～1200字）でお願いします。この抄録がそのまま抄録集として白黒印刷されます。図表は入れないでください。

7. 演題採択

地方会実行委員会学術担当にて審査を行い決定いたします。採択通知は、4月下旬にメールにて行います。なお、会場の都合でやむを得ず口演発表からポスター発表に、あるいはポスター発表から口演発表に変更をお願いする場合は個別にご連絡を申し上げます。

8. 問合せ先

日本プライマリ・ケア連合学会

北海道ブロック支部事務局 小本（松前町立松前病院内）

hpca.jimukyoku@gmail.com

口演発表 or ポスター発表 (希望する方を選択してください。)

演題タイトル(MS 明朝・10.5 ポイント、副題を含め 50 文字以内)

—副題— (つけるのは任意です)

○筆頭演者¹、共同演者²、・・・

¹所属、²所属・・・(演者と所属で計 100 字以内)

抄録本文 (800～1200 字以内)

【目的】

【方法】

【結果】

【考察】

【結論】

●以上の項目は、研究報告の場合です。

活動報告、症例報告は、このような構造化の必要ありません。

●A4 用紙 1 枚に収まるようにしてください。

文字は、演題タイトル、副題、演者、所属、本文すべて、MS 明朝体、10.5 ポイントで記載をお願いします。

第3回 北海道 プライマリ・ケア フォーラム

<第3回 北海道プライマリ・ケア フォーラム テーマ>

「聞きたい! 知りたい! 学びたい!
深めよう あなたのの中の総合診療」

基調講演

座長: 松前町立松前病院 院長 木村 眞司 先生

「家庭医をめざして
ジャングルジムをのぼったら」

講師: 唐津市民病院きたはた 院長
大野 每子 先生



プログラム

12:00～開場・受付

13:00 開会

13:40～15:00 セッション1

① 学生企画「家庭医療の舞台裏へ～若手キャリアプラン～」

② ワークショップ「困ったなあ、そうだみんなと相談だ～多職種連携やってみよう～」

③ ワークショップ「在宅でどう判断する? -訪問診療における臨床推論-」

15:20～16:40 セッション2

④ ワークショップ「臨床に活かすための「患者中心の医療」入門」

⑤ 特別企画「専門医をとったらどうなるの?～病院総合医のキャリアプラン～」

⑥ 特別企画「北海道を知ろう～私の町はこんな町～」

17:00～基調講演「家庭医をめざしてジャングルジムをのぼったら」

18:30 閉会

19:00～懇親会

(会場 ホテルポールスター札幌 札幌市中央区北4条西6丁目、会費 3,000円)

参加費

<学生>
<初期研修医>
無料

<支部会員> 2,000円
<非支部会員> 4,000円

日時:
平成27年11月28日(土)
13:00～18:30

会場:
北海道立道民活動センター
(かでる2・7)
札幌市中央区北2条西7丁目

♪ 託児所を準備しています♪

最新情報・事前参加申込は
Facebook または支部 HP より
<http://jpca-hokkaido.jp/>

対象:
医療系学生
研修医
若手医師
各種医療専門職

*本フォーラムは「プライマリ・ケア専門医・認定医更新のための単位」として4単位、「プライマリ・ケア認定薬剤師の認定単位」として2単位が認定されます。

主催: 日本プライマリ・ケア連合学会 北海道ブロック支部、北海道(北海道保健福祉部地域医師確保推進室)

共催: 日本プライマリ・ケア連合学会 学生研修医部会 北海道支部

基調講演「家庭医をめざしてジャングルジムをのぼったら」

講師：大野 每子 先生（唐津市民病院きたはた）

座長：木村 眞司 先生（松前町立松前病院）

医者になろうと思ったのは高校生の頃だった。医者がいる原風景は子供のころからお世話になっていた開業医の診療所である。その待合室は消毒薬のにおいがし、掘りごたつがあり、漫画本がおいてあった。大病をしなかった私は大病院のことは知らず、私にとって医師になるというのはそんなところで働く医師になるということと同義であった。大学に入り、家庭医という言葉にであったのは4年生のころである。将来何科にすすみたいか興味がある分野について、学生同士で話題になり始めるころだ。私の通っていた診療所の先生みたいになるには何科に進んだらいいのだろうと友人に話したところ、その勉強熱心な友は「それは家庭医っていうんだよ。」と教えてくれた。しかし、研修先探し、大学院探し、就職先探し…すべて手探りだった。家族ができ、管理職になり雪だるま式に増える責任…ロールモデルを探した。いつも何かを探して道をあゆみ、今に至っている。九州の端っこで、現在仲間とともに展開している家庭医としての仕事を紹介し、また今、道を探している人に少しでも参考になればと一体験談を勇気をもってお話ししたい。

① 学生企画「家庭医療の舞台裏へ～若手キャリアプラン～」

講師：中川 久理子 先生（寿都町立寿都診療所、家庭医療専門医・指導医）、葛西 孝健 先生（江別市立病院、プライマリ・ケア認定医）、後藤 郁美 先生（上井草診療所、後期研修医）、高石 恵一 先生（勤医協中央病院、初期研修医）

【家庭医療の舞台裏へ】

プライマリケアに興味はあるけれど、ロールモデルとなる先生が身近に少なくてもヤモヤしている皆さん！このセッションでは多様な背景をお持ちの4名の医師をお招きします。プライマリケアを志した動機、年齢・卒後年数に応じたキャリアの展望、プライベートの話、仕事と家庭の両立の裏話などをお話いただきます(30分)。その後、話を聞いてみたい先生とカフェ形式で質疑応答ができます(50分)。

【ようこそ】

② ワークショップ「困ったなあ、そうだみんなで相談だ～多職種連携やってみよう～」

代表講師：浅沼 史 先生

（勤医協 月寒ファミリークリニック 事務主任）

現在の医療・介護は専門分化が進み、各専門職種が果たす役割もますます高度になっています。一方、患者さん・利用者さんが抱える問題も複雑化しており、単独の専門職種だけの援助ではうまくいかないことも増えてきました。複数の問題が複雑に影響しあっている方に、複数の専門職種が連携してチームで援助することで、事態を少しでも良い方向に変えられないか、日々続く模索をワークショップで追体験していただければと思います。

③ ワークショップ

「在宅でどう判断する？-訪問診療における臨床推論-」

代表講師：今江 章宏 先生

（北海道家庭医療学センター 寿都町立寿都診療所）

「在宅医療（訪問診療）での臨床推論」ってどんなイメージでしょうか？検査機器等の医療資源が限られているのはもちろんですが、他にも病院の救急・入院・外来とはまた違った、在宅ならではの特徴や求められる判断力があります。今回は、実際にあった事例での臨場感あふれる症例カンファレンスを通じて、在宅ならではの臨床推論について皆さんと一緒に考える機会にしたいと思います。

④ ワークショップ

「臨床に活かすための「患者中心の医療」入門」

代表講師：保脇 雄介 先生（松前町立松前病院）

この患者さん、病院では元気だったのに帰るとすぐ悪くなる…。診断・治療は良いはずなのに、スッキリしないことはありませんか？そんな時は「患者中心でない医療」になっているかもしれません。「患者中心の医療」って何？どうやって実際の医療現場で役立てる？教科書的な疾患知識と一人の人間としての患者さんとの間のギャップに気づくこと、またそれを臨床に活かすきっかけになることを目標とした、入門用のワークショップです。

⑤ 特別企画「専門医をとったらどうなるの？～病院総合キャリアプラン～」

座長：菅藤 賢治 先生（勤医協中央病院）

講師：木佐 健悟 先生（倶知安厚生病院）、佐藤 健太 先生（勤医協札幌病院）、山本 浩之 先生（帯広厚生病院）

家庭医療専門医が少しずつアイデンティティを確立していく中、まだまだ不透明なのが病院総合医のキャリア。現行の家庭医療専門医の多くが診療所で働いている状況で、これまで病院総合医はどのようにキャリアを積み重ねてきたのでしょうか？病院総合医として実際に診療されている先生方に、これまでのキャリアの積み重ね方や後輩に向けたメッセージを語っていただきます。

【対象】主に病院総合医を志望する初期～後期研修医、学生さんでも大丈夫です。

⑥ 特別企画「北海道を知ろう～私の町はこんな町～」

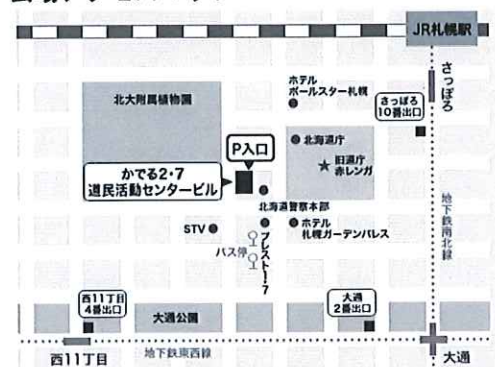
座長：松浦 広昂 先生（手稲家庭医療クリニック）

シンポジスト：大城 忠 先生（道南勤医協江差診療所）、行木 紘一 先生（弟子屈クリニック）、村上 英之 先生（足寄町国民健康保険病院）

北海道内の地域医療の魅力を現場の医師やメディカル（看護師やMSW）から語っていただきます。診療内容から地域の売り・地域住民との距離の取り方など、深く掘り下げてお届けいたします。（各20分）その後全体でディスカッションをする予定です。（20分）

【対象】地域医療って何ですかという方から実際現場で働いています、という方まで幅広く設定しております。

会場アクセスマップ



★お車で越しのお客様は、地下駐車場をご利用ください★

JR 札幌駅	: 徒歩 12分
地下鉄さっぽろ駅 10番出口	: 徒歩 7分
地下鉄大通駅 2番出口	: 徒歩 9分
地下鉄西 11丁目駅 4番出口	: 徒歩 10分
JR バス北 1条西 7丁目	: 徒歩 3分
中央バス北 1条西 7丁目	: 徒歩 3分

第3回北海道プライマリ・ケアフォーラムの様子

＜開会挨拶＞		
日本プライマリ・ケア連合学会 北海道ブロック支部長 木村先生	北海道保健福祉部 森技監	実行委員長 勝田先生
		

①学生企画／若手キャリアプラン 「家庭医療の舞台裏へ～若手キャリアプラン～」 >



②ワークショップ／多職種連携 「困ったなあ、そうだみんなで相談だ～多職種連携やってみよう～」



③ワークショップ／臨床推論 「在宅でどう判断する？—訪問診療における臨床推論—」



第3回北海道プライマリ・ケアフォーラムの様子

④ワークショップ／患者中心の医療の方法 「臨床に活かすための「患者中心の医療」入門」



⑤特別企画／シンポジウム1 「専門医をとったらどうなるの？～病院総合医のキャリアプラン～」



⑥特別企画／シンポジウム2 「北海道を知ろう～私の町はこんな町～」



第3回北海道プライマリ・ケアフォーラムの様子

基調講演

「家庭医をめざしてジャングルジムをのぼったら」

講師： 唐津市民病院きたはた 院長 大野 每子 先生



<閉会挨拶>

日本プライマリ・ケア連合学会 北海道ブロック副支部長 川畑先生



ポスター展



会場の様子



北海道地域医療ウィンター キャンプ 2016 in 寿都

主催：北海道地域医療ウィンターキャンプ2016実行委員会
後援：日本プライマリ・ケア連合学会北海道ブロック支部
日程：平成28年3月4日（金）午後集合～6日（日）午後解散（2泊3日）
実施場所：北海道寿都郡寿都町内
宿泊場所：ゆべつのゆコテージ
対象：北海道の医学部に在籍する医学生、北海道出身の医学生（主に1～4年の低学年）
参加定員：12名

◎このキャンプのコンセプト

「地域医療の第一歩」はその地域で暮らす人々の生活を知り、その想いに触れることです。この冬、北海道の西端に位置し、風のまちと言われる寿都町での暮らしを一緒に体験してみませんか？きっと新しい発見があなたを待っていることでしょう。

◎キャンプのコンテンツ

・フィールドワーク1：「訪問」

在宅で療養されている・されていた患者さんのお宅にお伺いしてみましょ。彼らが期待していること、感じていることを肌身で感じてきてください。皆さんが今後すべきことが分かるかもしれません。

・フィールドワーク2：「地域での子育て」

地域で子育てしている母親のサークル活動に参加することで、地域で暮らすこと、地域で子育てをしながら仕事をしていくことなどを感じてみましょう！

・フィールドワーク3：「町歩き」

寿都町の大自然を体感しながら町を散策し、出会った方に突撃インタビューをしてみましょ！地域での暮らし、地域医療で必要な何かを感じることができますよ。

参加申込期間：平成27年12月1日～平成28年2月4日

申し込み・お問い合わせ：日本プライマリ・ケア連合学会北海道ブロック支部事務局まで hpca.jimukyoku@gmail.com